

運命の友

ラジオネーム：お米ソフト

お前と初めて会ったのは、大学生の時、横浜のコンビニのアルバイトだった。

俺の1カ月くらいあとに採用されたお前と休憩時間に雑談をしたとき、「こいつとはすごく気が合う。友達になりたい！」と直感で思った。

初対面の人間に対してそんな風に思ったのは、後にも先にもあの時だけだ。

バイト終わりに一緒にファミレスで晩飯を食べて、夜中まで語り合って、すっかり意気投合した。

通う大学は違ったけど、歳が同じで、家も自転車で10分くらいの距離で、

お互いそんなに女性にモテるタイプでなかったのも手伝ってか、ずいぶん一緒につるんだものだ。

覚えているか？

お前が中古で車を買ったとき、2人でバイトの深夜シフトを終えた後、レンタカーでそのまま伊豆半島へ日帰りで行ったのを。

早朝の、すすいている首都高から東名高速をびっ飛ばし、ワサビ田を見て、天城隧道を通過って、修善寺で足湯に浸かり、

最後はソフトクリームを食べてとんぼ返りしたけど、あれは本当に楽しかったよ。

大学を卒業した後、俺は北海道に戻り、お前も地元の山梨に戻り、

それからはあまり会えなくなったけど、俺が出張で上京するときには、

平日だろうが短い時間だろうが必ず会いに来てくれたよな。

会えるのはうれしかったけど、

お前と会うと気持ちが生時代に戻りすぎてしまって、

すっかり仕事をする気分じゃなくなってしまっから、困ったものだったよ。

お互い定年を迎えたらゆっくり会おうと話していた矢先の、お前の病気の発覚。

2年の闘病の末に逝ってしまったが、奥さんから電話をもらった時は、着信を見た瞬間に「ついに来たか・・・」と思って、涙が出てしまったよ。

今は、自分の青春時代の半分が失われてしまったみたいで、喪失感が大きい。

次の出張では、何とか時間を作って山梨まで足を延ばすつもりだ。

たとえば5分であっても、お線香をあげに行くよ。

リクエスト曲

へ 天城越え／石川さゆり
く